

21世紀を生き抜く力の育成をめざして

～ ICT教育環境の整備を通して～

神戸町教育委員会 教育課

1 はじめに

近年の高度情報通信技術の急激な進展にともない、社会のあらゆる分野での情報化、グローバル化が進んでいる。デジタルネイティブと呼ばれる情報化の中で育っていくこれからの子どもたちには、周囲の状況や環境の変化に適切かつ主体的に対応できる情報活用能力を身に付けることが重要になる。

そのため、学校教育においては、子どもたちが21世紀を生き抜く力を育てる学習・指導環境が求められている。

学校教育におけるICT環境の整備は、新しい授業スタイルで教育の質を高め子どもたちの学力を伸ばす有効なツールとして今までにない変革を与える可能性を秘めている。

2 神戸町の取組

教育の情報化に必要なICT環境の整備には、多額の費用がかかるため短期間に整備するのは困難である。また、整備した環境が、有効に活用されないと子どもたちの力が育成にもつながらない。

そこで、神戸町では、ICT環境の整備について、次の3つの視点をもち整備を進めてきた。

①教職員や専門家の意見の反映した整備

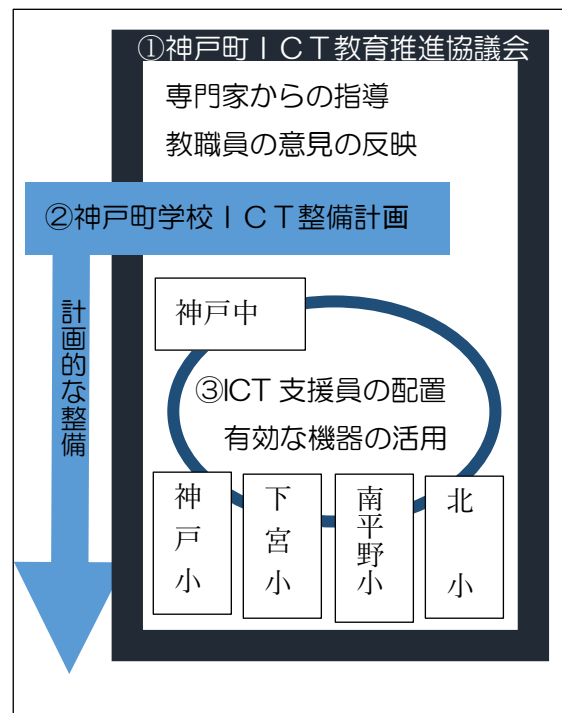
…ICT教育推進協議会の設置

②計画的な整備…ICT整備計画の策定

③整備した機器の有効活用

…ICT支援員の配置

これらの視点に基づいて、神戸町では、ICT環境を、ICT教育推進協議会における専門家からの指導や町内の教職員から意見を踏まえ、ICT整備計画を作成する。これをもとに、計画的に整備し、ICT支援員を配置することで、機器の有効活用を進めていくことを考えた。



①教職員や専門家の意見の反映した整備

…ICT教育推進協議会の開催

ICT環境を整備する上では、各種支援体制や情報セキュリティ対策、学習指導要領に関する課題等、様々な意見や情勢の変化に対応できる組織的な体制が必要である。

神戸町では、学識経験者や町内の教職員からの意見や町の方針を示していくために、平成28年度より、年3回「神戸町ICT教育推進協議会」を開催している。

この会では、学識経験者と町内各小中学校の情報教育担当教諭が集まり、ICT 環境の整備について研修や意見交流を行う場となっている。

今年度は、来年からのプログラミング教育について、研修や意見交流を行った。

②計画的な整備… I C T 整備計画の策定

神戸町では、ICT 教育推進協議会の意見も踏まえ、平成30年3月に神戸町学校 ICT 整備計画（H30～R3）を作成した。

整備計画の中では、神戸町の教育情報化の現状と課題を明確にし、それを解決するため、教育情報化の基本方針を設定し、これに基づいて、教育情報化の具体施策を定めている。

これまでに次の表のように整備を進めてきた。

H28	全小中学校に電子黒板を整備 
H29	中学校にタブレット端末 120 台を整備
H30	4 小学校にタブレット端末 210 台を整備 
R1	中学校に 45 台、小学校に 40 台のタブレット端末の追加

③整備した機器の有効活用

… I C T 支援員の配置

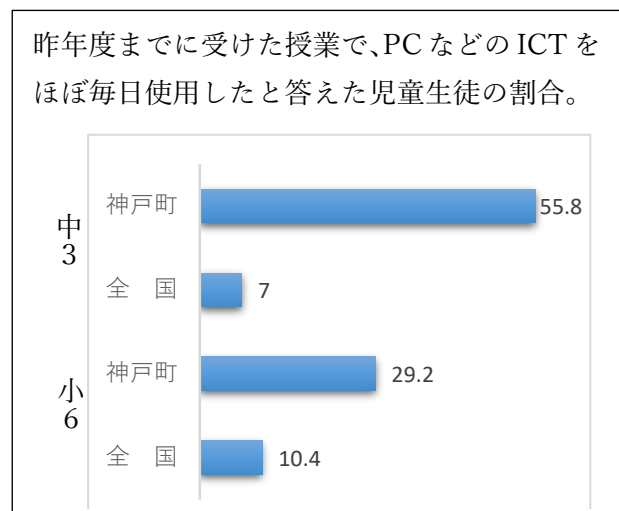
教職員・子どもたちとともに ICT 活用能力の向上を図り、プログラミング教育等を実践していくために、専門的な知識を有する支援体制が必要となってくる。

そこで、神戸町では、ICT 支援員が町内各小中学校を週 1 回巡回できるように配置している。

ICT 支援員は、授業準備の補助、授業の立ち合い、勉強会の開催等を行っている。

3 終わりに

このようにして、ICT 環境の整備を進めてきた成果として、全国学力状況調査の児童生徒質問紙の中で、次のような回答を得ている。



この結果から、確実に ICT 機器の活用が進んでいることがわかる。

今後も、神戸町学校 ICT 整備計画に従い、ICT 環境の整備を進めていくとともに、ICT 教育推進協議会の意見を踏まえ、町としての教育課題や児童生徒の実態に合わせた教育を進めていきたいと考える。